

平成15年度化学物質の排出量・移動量の集計結果

平成17年7月20日
福島県大気環境グループ

この結果は、特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(平成11年法律第86号。以下、「法」という。)第5条第2項に基づき県を經由して国に届け出られた第一種指定化学物質(354物質)の排出量等が環境省・経済産業省により、集計、公表され、県に通知されたことから、法第8条第5項に基づき、本県における環境への排出量等の集計結果と国が推計した届出対象外の排出量の集計したものです。

1 対象年度等

- (1) 対象年度 平成15年度(平成15年4月1日～平成16年3月31日)
- (2) 届出期間 平成16年4月1日～平成16年6月30日

2 結果

(1) 届出状況

届出のあった事業所は県内で1,084事業所でした。これは、全国第14位で全国の届出事業所(41,079事業所)の2.6%でした。

業種別にみると燃料小売業が537事業所(県内の届出事業所の50%)で最も多く、次いで製造業の353事業所(県内の届出事業所の33%)の順でした。製造業のうち最も多かったのは、化学工業の67事業所(県内の製造業の19%)で、次いで電気機械器具製造業の63事業所(県内の製造業の18%)でした。

届出のあった化学物質は、第一種指定化学物質354物質のうち206物質でした。

表1 福島県内における業種別届出事業所数

業種名	事業所数	割合(%)	届出物質種類数	業種名	事業所数	割合(%)	届出物質種類数
金属鉱業	1	0.1	1	電気計測器製造業	1	0.1	1
原油・天然ガス鉱業	1	0.1	29	輸送用機械器具製造業	26	2.4	51
製造業	353	32.6	206	船舶製造 修理業、船用機関製造業	1	0.1	3
食料品製造業	3	0.3	1	精密機械器具製造業	9	0.8	9
飲料・たばこ・飼料製造業	1	0.1	1	医療用機械器具・医療用品製造業	3	0.3	6
繊維工業	1	0.1	1	武器製造業	1	0.1	10
衣服・その他の繊維製品製造業	3	0.3	5	その他の製造業	13	1.2	22
木材・木製品製造業	6	0.6	8	電気業	6	0.6	36
家具・装備品製造業	6	0.6	9	ガス業	1	0.1	2
パルプ・紙・紙加工品製造業	10	0.9	40	水道業	38	3.5	30
出版・印刷 印刷関連産業	6	0.6	8	鉄道業	2	0.2	4
化学工業(医薬品製造業、農薬製造業を含む)	67	6.2	181	倉庫業	1	0.1	5
石油製品・石炭製品製造業	1	0.1	5	石油卸売業	22	2.0	5
プラスチック製品製造業	17	1.6	14	燃料小売業	537	49.5	6
ゴム製品製造業	13	1.2	25	洗濯業	2	0.2	2
窯業・土石製品製造業	21	1.9	33	自動車整備業	54	5.0	1
鉄鋼業	5	0.5	10	計量証明業	1	0.1	1
非鉄金属製造業	21	1.9	45	一般廃棄物処理業(ごみ処分量に限る。)	49	4.5	30
金属製品製造業	38	3.5	22	産業廃棄物処分業(特別管理産業廃棄物処分業を含む)	13	1.2	31
一般機械器具製造業	16	1.5	17	高等教育機関	1	0.1	1
電気機械器具製造業	63	5.8	42	自然科学研究所	2	0.2	1
電子応用装置製造業	1	0.1	15	合計	1,084	100	206

図1 都道府県別届出事業所数(上位20位)

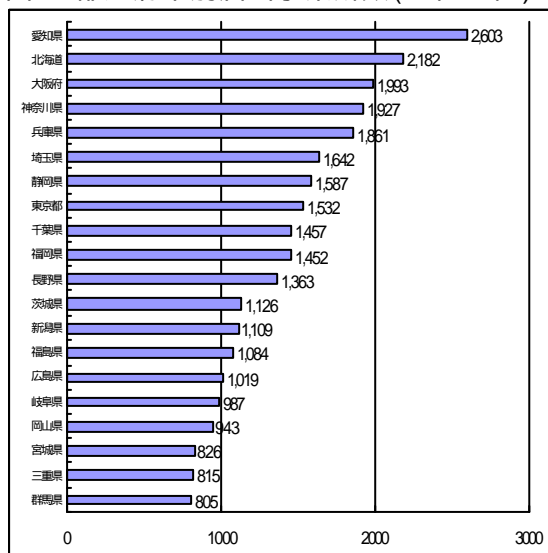
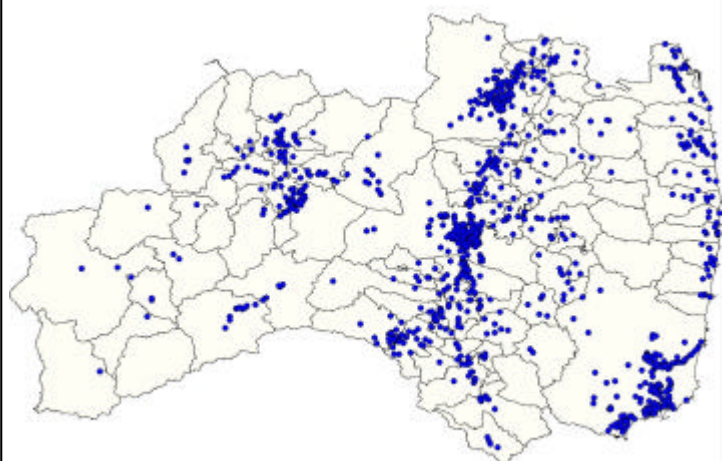


図2 福島県内の届出事業所の分布状況(1,084事業所)



(2) 届出排出量・移動量

事業者から届出のあった排出量の合計は8,226tでした。これは、全国第17位であり、全国の排出量(290,508t)の2.8%でした。環境への排出量の大部分は大気への排出(届出排出量の86%)で、次いで公共用水域への排出(14%)でした。

事業者から届出のあった移動量の合計は、10,178tでした。これは、全国第10位であり、全国の移動量(239,556t)の4.2%でした。移動量の大部分は事業所外への廃棄物としての移動であり(移動量全体のほぼ100%)、全国の状況とほぼ同じ傾向でした。

届出排出量・移動量の合計は18,404tでした。これは、全国第11位であり、全国の届出排出量・移動量(530,064t)の3.5%でした。

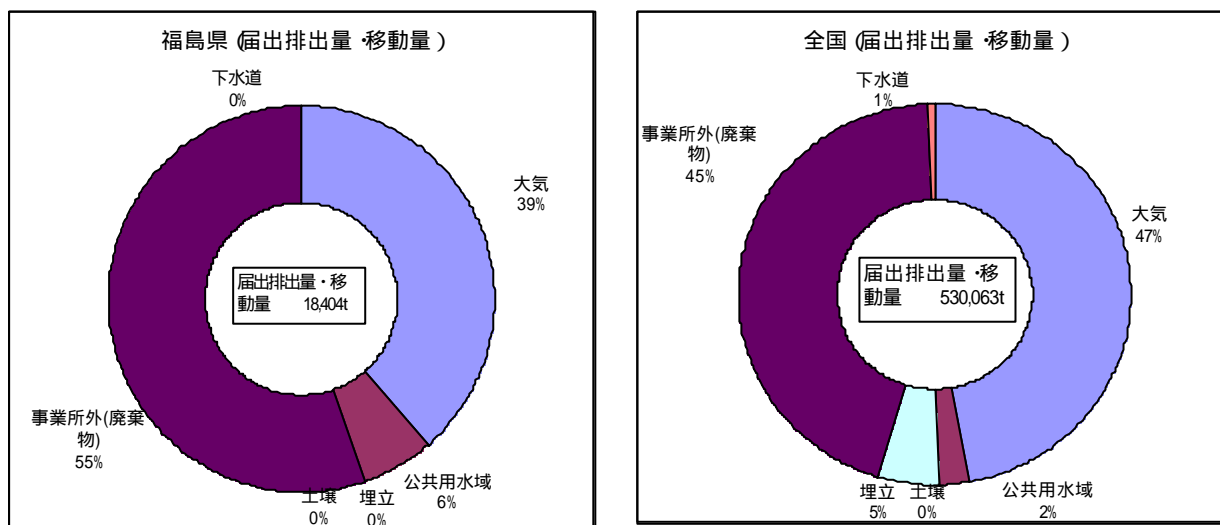
届出排出量・移動量の内訳及び全国の状況との比較を、表2、図3に示しました。

表2 届出排出量・移動量の内訳等

	環境への排出量 (t)					移動量 (t)			排出・移動量合計 (t)
	排出量計	大気	公共用水域	土壌	埋立	移動量計	事業所外(廃棄物)	下水道	
福島県	8,226 (100)	7,102 (86.3)	1,122 (13.6)	0.0 (0.0)	2.1 (0.03)	10,178 (100)	10,177 (100)	0.8 (0.01)	18,404 < 3.5% >
全国順位	17位	16位	1位	-	18位	10位	10位	38位	11位
全国	290,508 (100)	250,433 (86.2)	12,544 (4.3)	249 (0.1)	27,282 (9.4)	239,556 (100)	236,467 (98.7)	3,088 (1.3)	530,064

(注) ア 排出量等の下段の()の数値はそれぞれ排出量計、移動量計に対する割合(%)です。
イ 福島県の排出・移動量合計の下段の< >の数値は全国合計に対する割合(%)です。

図3 全国及び福島県の届出排出量・移動量の内訳



(3) 届出排出量・移動量の多い物質

福島県で届出排出量・移動量の多い上位5物質は表3のとおりであり、その合計は12,130tで、届出排出量・移動量の合計18,404tの66%でした。

全国で届出排出量・移動量の多い物質は、トルエン(170千t)、キシレン(60千t)、塩化メチレン(34千t)、マンガン及びその化合物(33千t)、鉛及びその化合物(18千t)の順であり、福島県は上位5物質のうち、4物質が同じでした。

届出の対象物質となっている第一種指定化学物質354のうち、届出がなされた物質は206物質(全国では334物質)あり、都道府県別にみると本県は最も多くの種類の物質の届出がありました(2位山口県199物質、3位茨城県193物質、4位兵庫県192物質、5位埼玉県191物質)。

また、1事業所あたりの平均届出物質数は5.6物質でした。

表3 届出排出量・移動量の多い上位5物質

物質番号	物質名	主な用途	排出量(t)	移動量(t)	排出量・移動量(t)
227	トルエン	合成原料・溶剤	3,967	2,596	6,563
311	マンガン及びその化合物	特殊鋼・電池等	175	1,856	2,031
145	塩化メチレン (ジクロメタン)	金属洗浄剤	1,011	303	1,314
63	キシレン	合成原料・溶剤	918	369	1,287
283	ふっ化水素及びその水溶性塩	合成原料・表面処理	191	745	935

(4) 届出排出量の多い物質

福島県で届出排出量の多い上位5物質は表4のとおりであり、排出先別では表5から表7のとおりでした。

届出排出量の多い上位5物質の合計は6,699tであり、届出排出量の合計8,226tの81%でした。

全国で届出排出量の多い物質は、トルエン(119千t)、キシレン(48千t)、塩化メチレン(25千t)、エチルベンゼン(13千t)、鉛及びその化学物質(10千t)の順であり、福島県は上位3物質が同様な傾向でした。

また、届出排出量(大気への排出)の福島県内における市町村分布マップを図4に示しました。

表4 届出排出量の多い上位5物質

物質番号	物質名	主な用途	排出量(t)	うち大気への排出量(t)
227	トルエン	合成原料・溶剤	3,967	3,966
145	塩化メチレン (ジクロメタン)	金属洗浄剤	1,011	1,010
63	キシレン	合成原料・溶剤	918	918
304	ほう素及びその化合物	ガラス添加剤、脱酸剤、電子材料	496	17
211	トリクロロエチレン	溶剤、洗浄剤	307	307

表5 大気への排出量の多い上位5物質

物質番号	物質名	主な用途	排出量(t)
227	トルエン	合成原料・溶剤	3,966
145	塩化メチレン (ジクロメタン)	金属洗浄剤	1,010
63	キシレン	合成原料・溶剤	918
211	トリクロロエチレン	溶剤、洗浄剤	307
40	エチルベンゼン	ガソリン成分、溶剤	146

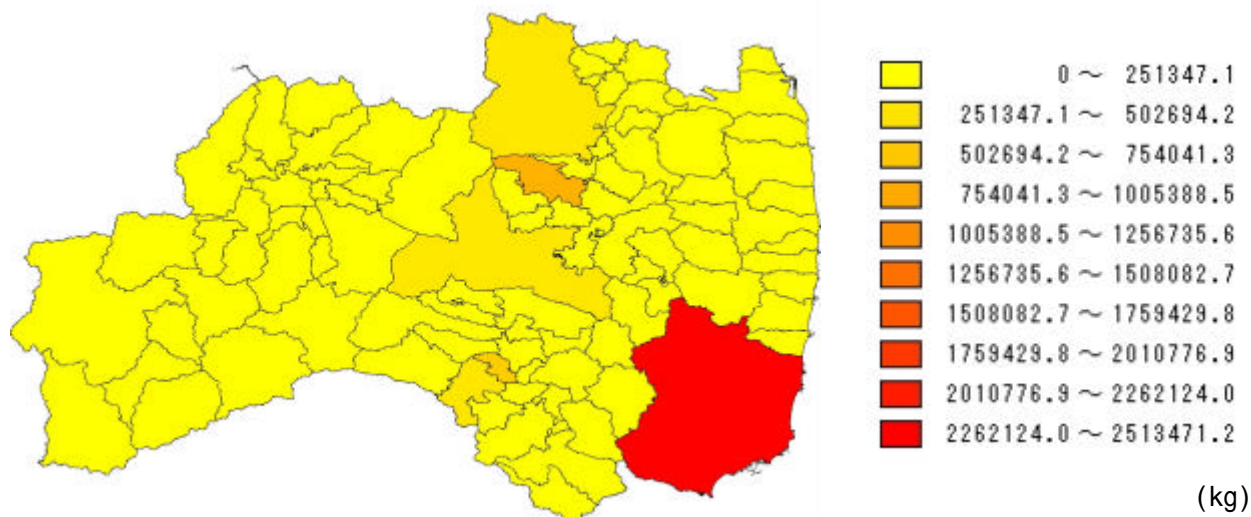
表6 公共用水域への排出量の多い上位5物質

物質番号	物質名	主な用途	排出量(t)
304	ほう素及びその化合物	ガラス添加剤、脱酸剤、電子材料	479
181	チオ尿素	医薬原料、農薬、樹脂加工等	220
283	ふっ化水素及びその水溶性塩	合成原料、金属ガラスの表面処理	187
311	マンガン及びその化合物	特殊鋼・電池等	174
172	N, N-ジメチルホルムアミド	ポリマー溶剤・ガス吸収剤	12

表7 敷地内埋立の多い上位5物質

物質番号	物質名	主な用途	排出量(t)
252	砒素及びその無機化合物	殺虫剤、防腐剤、電子材料	2.1
283	ふっ化水素及びその水溶性塩	合成原料、金属ガラスの表面処理	0.0006
209	1,1,1-トリクロロエタン	溶剤、合成原料	0.0005
69	六価クロム化合物	メッキ、防錆剤	0.0003
108	無機シアン化合物(錯塩及びシアン酸塩を除く)	メッキ助剤、金属の焼入れ	0.0002

図4 届出排出量(大気への排出)の福島県内市町村分布マップ



注)色が濃い地域は排出量が大きいいことを示しますが、その地域で人や生態系に影響を及ぼしていることを示すわけではありません。

(5) 届出移動量の多い物質

福島県で届出移動量の多い上位5物質は表8のとおりで、移動先はほとんどが事業所外への廃棄物としての移動でした。

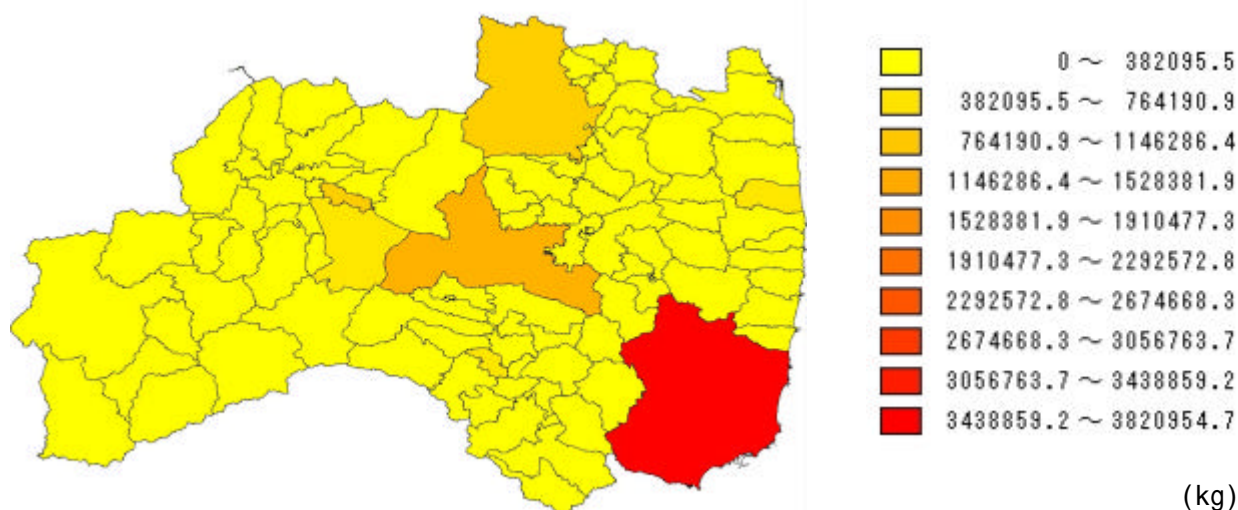
届出移動量の多い上位5物質の合計は6,094tであり、届出移動量の合計10,177tの60%でした。全国で届出移動量の多い物質は、トルエン(51千t)、マンガン及びその化合物(24千t)、クロム及び三価クロム化合物(16千t)、エチレングリコール(14千t)、キシレン(12千t)の順であり、福島県は、全国と上位2物質が同じでした。

また、届出移動量(事業所外への廃棄物としての移動)の福島県内における市町村分布マップを図5に示しました。

表8 届出移動量の多い上位5物質

物質番号	物質名	主な用途	移動量(t)
227	トルエン	合成原料・溶剤	2,596
311	マンガン及びその化合物	特殊鋼・電池等	1,856
283	ふっ化水素及びその水溶性塩	合成原料、金属ガラスの表面処理	745
211	トリクロロエチレン	溶剤、洗浄剤	505
12	アセトニトリル	溶剤、合成原料	392

図5 届出移動量(事業所外への廃棄物としての移動)の福島県内市町村分布マップ



注)色が濃い地域は移動量が大きいいことを示しますが、その地域で人や生態系に影響を及ぼしていることを示すわけではありません。

(6) 業種別の届出排出量・移動量

福島県内の製造業23業種の届出排出量・移動量の合計は18,136tであり、対象45業種（製造業23業種、非製造業22業種）から届出のあった排出量・移動量の合計18,404tの99%にあたります。届出排出量・移動量の多い上位5業種は表9のとおりでした。全国で届出排出量・移動量の多い業種は、化学工業、輸送用機械器具製造業、プラスチック製品製造業、鉄鋼業、電気機械器具製造業の順であり、福島県は上位5業種のうち、3業種が同じでした。

表9 届出排出量・移動量の多い上位5業種

業 種 名	排出量・移動量(t)	排出量(t)	移動量(t)
化学工業	7,324	1,218	6,106
窯業・土石製品製造業	2,660	1,630	1,029
輸送用機械器具製造業	1,599	1,205	394
電気機械器具製造業	1,428	418	1,010
出版・印刷・同関連産業	1,163	562	601

(7) 業種別の届出排出量

福島県内の製造業23業種の届出排出量の合計は8,051tであり、対象45業種（製造業23業種、非製造業22業種）から届出のあった排出量の合計8,226tの98%にあたります。福島県で届出排出量の多い上位5業種は表10のとおりでした。全国で届出排出量の多い業種は、輸送用機械器具製造業、化学工業、プラスチック製品製造業、非鉄金属製造業、パルプ・紙・紙加工品製造業の順であり、福島県は上位5業種のうち、3業種が同じでした。

表10 届出排出量の多い上位5業種

業 種 名	排出量(t)	移動量(t)	排出量・移動量(t)
窯業・土石製品製造業	1,630	1,029	2,660
化学工業	1,218	6,106	7,324
輸送用機械器具製造業	1,205	394	1,599
非鉄金属製造業	615	309	924
出版・印刷・同関連産業	562	601	1,163

(8) 届出外排出量

経済産業省及び環境省が推計を行った福島県内における届出外排出量の合計は、6,293tでした。これは全国第18位であり、全国の届出外排出量(341,803t)の2.3%でした。福島県は、対象業種未滿からの届出排出量の割合が全国に比較して多く、非対象業種からの割合が少ない傾向にありました。福島県における届出排出量の内訳を表11、図6に、全国の状況を図7、図8に示しました。

表11 届出外排出量の内訳等

	届出外排出量 (t)					< 再掲 > 届出排出量 (t)	届出・届出外 排出量合計 (t)
	届出外排 出量計	対象業種 要件未滿	非対象 業 種	家 庭	移動体		
福島県	6,293 (100)	1,282 (20.4)	1,444 (22.9)	1,354 (21.5)	2,213 (35.2)	8,226	14,519 < 2.3% >
全国順位	18位	16位	21位	16位	22位	17位	17位
全 国	341,803 (100)	54,548 (16.0)	104,989 (30.7)	63,030 (18.4)	119,236 (34.9)	290,508	632,311

(注) ア 排出量等の下段の()の数値はそれぞれ届出外排出量計に対する割合(%)です。
イ 福島県の届出・届出外排出量計下段の< >の数値は、全国合計に対する割合(%)です。

図6 福島県における届出外排出量の内訳

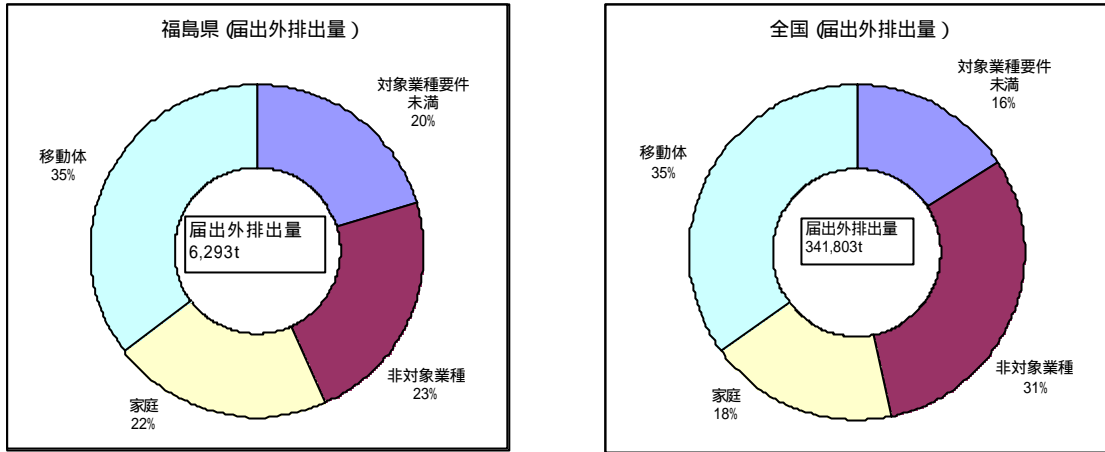
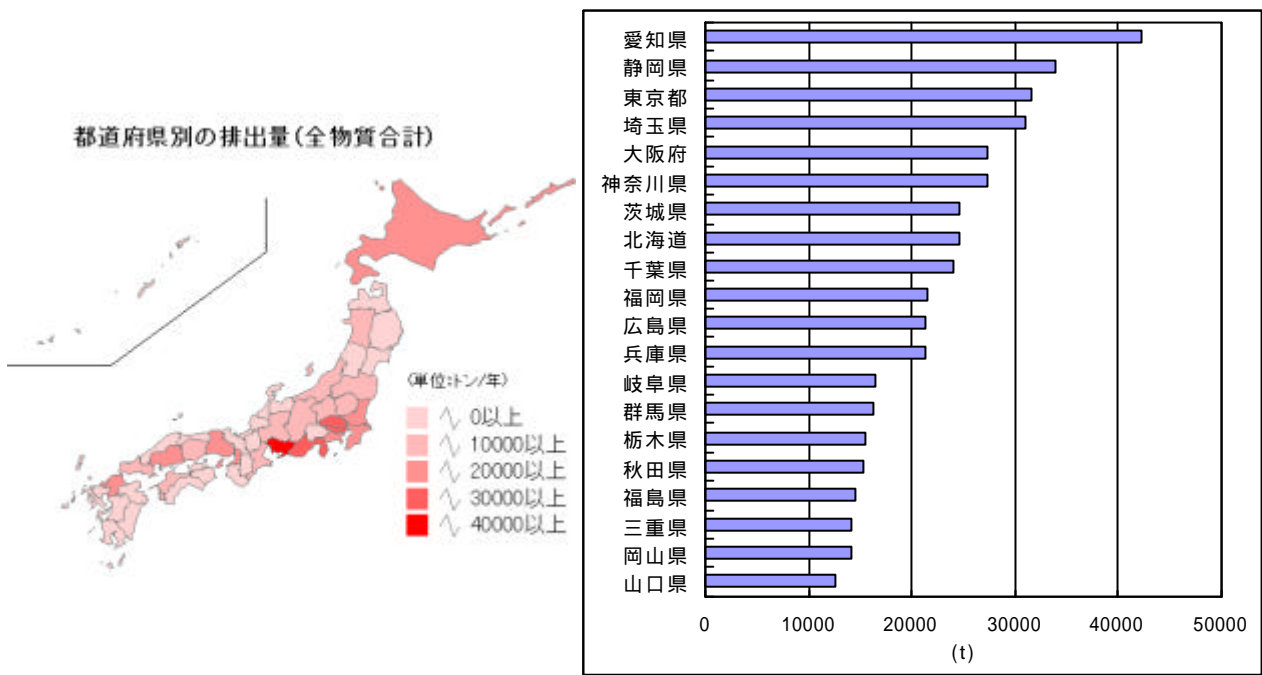


図7 全国の環境への排出量（届出・届出外） 図8 都道府県別届出・届出外排出量(上位20位)



(9) 届出外排出量の多い物質

福島県における上位5物質は表12のとおりであり、その合計は3,606tで、届出外排出量の合計6,293tの58%にあたります。

全国で届出外排出量の多い物質は、トルエン(72千t)、キシレン(67千t)、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩(21千t)、ポリ(オキシエチレン)＝アルキルエーテル(20千t)、p-ジクロロベンゼン(19千t)の順であり、福島県は上位5物質のうち4物質が同じでした。

表12 届出外排出量の多い上位5物質

物質番号	物質名	主な用途、由来	排出量(t)
227	トルエン	合成原料・溶剤	1,240
63	キシレン	合成原料・溶剤	938
24	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩	洗浄剤	577
307	ポリ(オキシエチレン)＝アルキルエーテル	洗浄剤	537
310	ホルムアルデヒド	自動車排ガス	314

(10) 届出排出量と届出外排出量の合計

福島県内における届出排出量(8,226t)と届出外排出量(6,293t)の合計は、14,519tでした。これは、全国第17位であり、全国の届出排出量・届出外排出量(632,311t)の2.3%でした。
届出排出量・届出外排出量の多い上位5物質の合計は9,372tであり、届出排出量・届出外排出量の合計14,519tの65%にあたります。

全国で届出排出量・届出外排出量の多い物質は、トルエン(191千t)、キシレン(115千t)、エチルベンゼン(31千t)、塩化メチレン(27千t)、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩(21千t)の順であり、福島県は上位5物質のうち4物質が同じでした。
福島県における上位5物質を表13に示しました。

表13 届出排出量・届出外排出量の多い上位5物質

物質番号	物質名	主な用途、由来	届出排出量・届出外排出量(t)	届出排出量(t)	届出外排出量(t)
227	トルエン	合成原料・溶剤	5,207	3,967	1,240
63	キシレン	合成原料・溶剤	1,856	918	938
145	塩化メチレン(ジクロロメタン)	金属洗浄剤	1,037	1,011	26
304	ほう素及びその化合物	ガラス添加剤、脱酸剤、電子材料	695	496	199
24	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩	洗浄剤	577	0	577

(11) 特定第一種指定化学物質の届出排出量・移動量、届出外排出量の集計結果

人に対して発ガン性のある特定第一種指定化学物質の福島県内における届出排出量・届出外排出量の合計は335.8tでした。これは、全国の届出排出量・届出外排出量24,519tの1.4%にあたります。

全国で届出排出量・届出外排出量の多い物質は、ベンゼン(17千t)、砒素及びその無機化合物(6.5千t)、塩化ビニル(0.54千t)、エチレンオキシド(0.51千t)、ニッケル化合物(0.24千t)の順であり、福島県は上位5物質が同じでした。

届出排出量の合計は48.8tであり、このうち90.6%の44.2tが大気への排出でした。
福島県における状況を表14に示しました。

表14 特定第一種指定化学物質の届出排出量・移動量等

物質名	主な用途、由来	届出排出量(t)	届出外排出量(t)	届出排出量・届出外排出量(t)	届出移動量(t)	合計(t)	
299	ベンゼン	ガソリン成分	17.8	283.0	300.8	1.2	302.0
77	塩化ビニル	重合原料	23.0	0	23.0	0.2	23.2
252	砒素及びその無機化合物	殺虫剤、防蟻剤	6.6	0.08	6.7	8.2	14.9
42	エチレンオキシド	合成原料、殺菌剤	0.3	3.4	3.7	0.3	4.0
60	カドミウム及びその化合物	顔料、電池、メッキ	0.6	0.02	0.6	6.4	7.0
232	ニッケル化合物	顔料、メッキ	0.4	0.07	0.5	26.0	26.5
69	六価クロム化合物	メッキ、防錆剤	0.1	0.3	0.4	11.0	11.4
294	バリウム及びその化合物	ガラス、合金	0	0.1	0.1	0	0.1
26	石綿	断熱剤、建材原料	0	0.002	0.002	0.008	0.01
179	ダイオキシン類	燃焼	10.4	3.5	13.9	20.8	34.7
計			48.8	287.0	335.8	53.3	389.1

注) ダイオキシン類の単位はg-TEQ

3 振興局別・市町村別の届出状況

(1) 届出事業所数

振興局別の届出事業所数は、表15のとおりであり、その割合は図9のとおりでした。
また、市町村別の届出事業所数上位10市町村は、表16のとおりであり、その割合は図10のとおりでした。

表15 振興局別届出事業所数

振興局名	届出事業所数
県北地方振興局	233
県中地方振興局	272
県南地方振興局	103
会津地方振興局	136
南会津地方振興局	26
相双地方振興局	114
いわき地方振興局	200
計	1,084

図9 振興局別届出事業所割合

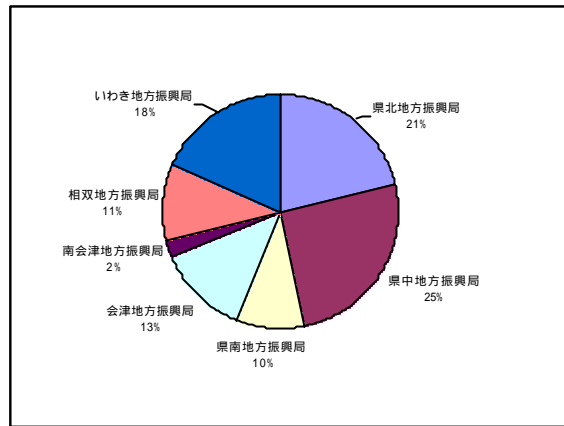
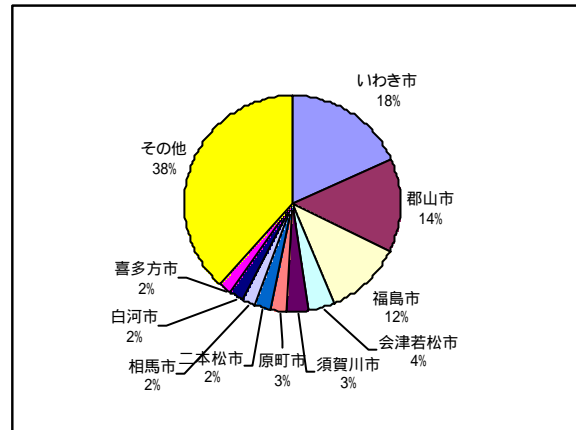


表16 市町村別届出事業所数(上位10位)

順位	市町村名	届出事業所数
1位	いわき市	200
2位	郡山市	148
3位	福島市	125
4位	会津若松市	41
5位	須賀川市	36
6位	原町市	28
7位	二本松市	24
	相馬市	24
9位	白河市	22
10位	喜多方市	20

図10 市町村別届出事業所割合



(2) 届出排出量・移動量

振興局別の届出排出量・移動量は、表17及び図11のとおりでした。
また、市町村別の届出排出量・移動量の上位10市町村は表18のとおりであり、その主なものを図示したものを図12～15に示しました。

表17 振興局別届出排出量・移動量

振興局名	環境への排出量(ト)				移動量(ト)			排出・移動量合計(ト)
	排出量計	大気	公共用水域	埋立	移動量計	事業所外(廃棄物)	下水道	
県北振興局	1,694 (21)	1,676 (24)	18 (2)	0.0 (0)	1,150 (11)	1,150 (11)	0.1 (9)	2,844 (15)
県中振興局	1,130 (14)	1,111 (16)	19 (2)	0.0 (0)	1,494 (15)	1,493 (15)	0.7 (82)	2,623 (14)
県南振興局	1,149 (14)	1,140 (16)	10 (1)	0.0 (0)	909 (9)	909 (9)	0.0 (0)	2,058 (11)
会津振興局	287 (3)	242 (3)	46 (4)	0.0 (0)	1,344 (13)	1,344 (13)	0.1 (9)	1,632 (9)
南会津振興局	16 (0)	16 (0)	0 (0)	0.0 (0)	11 (0)	11 (0)	0.0 (0)	26 (0)
相双振興局	418 (5)	406 (6)	12 (1)	0.0 (0)	1,458 (14)	1,458 (14)	0.0 (0)	1,876 (10)
いわき振興局	3,533 (43)	2,512 (35)	1,018 (91)	2.1 (100)	3,813 (37)	3,813 (37)	0.0 (0)	7,345 (40)
計	8,226 (100)	7,102 (100)	1,122 (100)	2.1 (100)	10,178 (100)	10,177 (100)	0.8 (100)	18,404 (100)

注) かつこ内は、該当する振興局の県合計に対する割合を示す。

図11 振興局別届出排出量・移動量

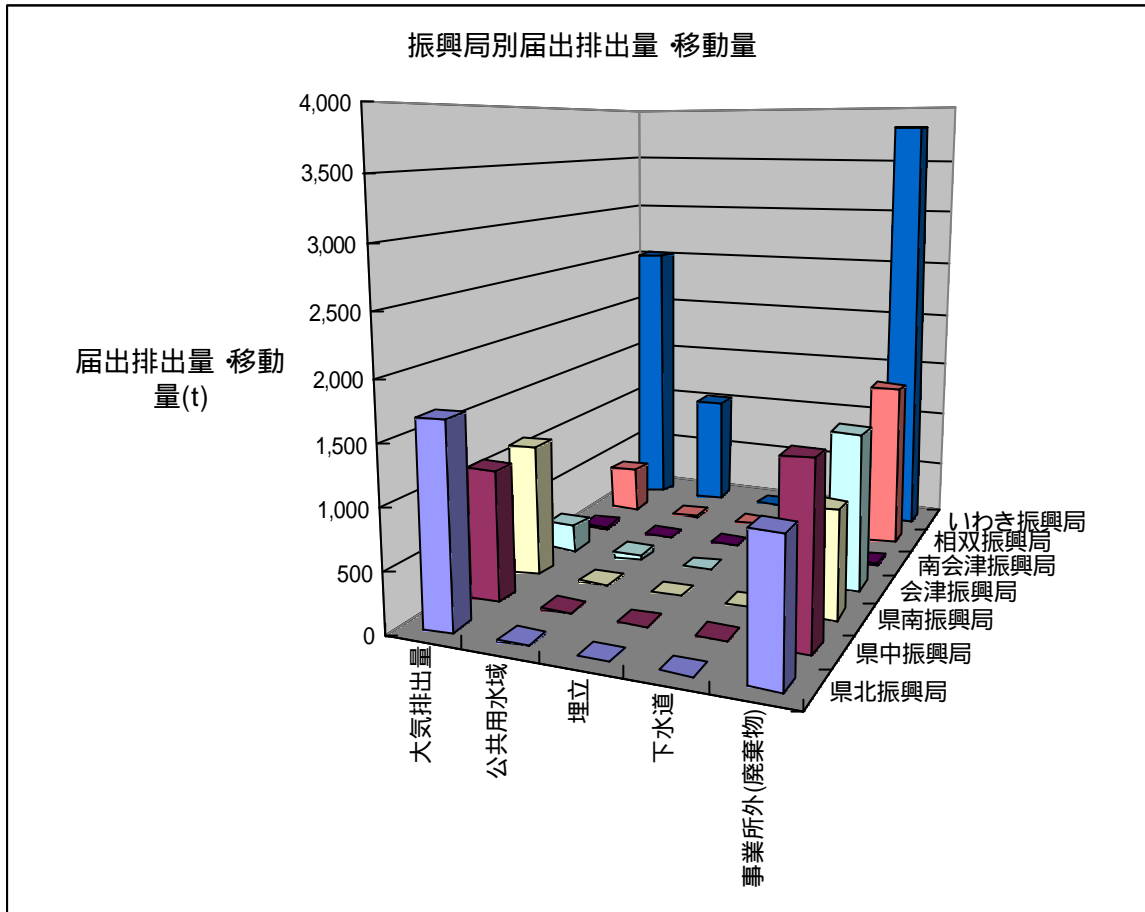


表18 届出排出量・移動量上位市町村

環境への排出量								
順位	市町村名	排出量計(t)	市町村名	大気(t)	市町村名	公共用水域(t)	市町村名	埋立(t)
1位	いわき市	3,533	いわき市	2,512	いわき市	1,018	いわき市	2.1
2位	二本松市	840	二本松市	839	会津若松市	20	山都町	0.0
3位	泉崎村	551	泉崎村	551	磐梯町	17		
4位	郡山市	482	郡山市	464	郡山市	17		
5位	福島市	456	福島市	439	福島市	16		
6位	白河市	373	白河市	373	西郷村	9		
7位	相馬市	226	相馬市	225	新地町	6		
8位	川俣町	178	川俣町	178	喜多方市	4		
9位	玉川村	163	玉川村	163	塩川町	2		
10位	須賀川市	151	須賀川市	150	大熊町	2		

移動量							排出・移動量合計	
順位	市町村名	移動量計(t)	市町村名	事業所外(廃棄物)(t)	市町村名	下水道(t)	市町村名	排出・移動量合計(t)
1位	いわき市	3,813	いわき市	3,813	郡山市	0.6	いわき市	7,345
2位	郡山市	1,196	郡山市	1,195	福島市	0.1	郡山市	1,678
3位	福島市	801	福島市	801	会津若松市	0.1	福島市	1,257
4位	河東町	792	河東町	792	須賀川市	0.1	泉崎村	1,163
5位	泉崎村	613	泉崎村	613			二本松市	1,072
6位	会津若松市	454	会津若松市	454			河東町	876
7位	小高町	394	小高町	394			会津若松市	510
8位	広野町	371	広野町	371			白河市	439
9位	大熊町	279	大熊町	279			広野町	415
10位	二本松市	232	二本松市	232			小高町	413

図12 市町村別届出排出量・移動量

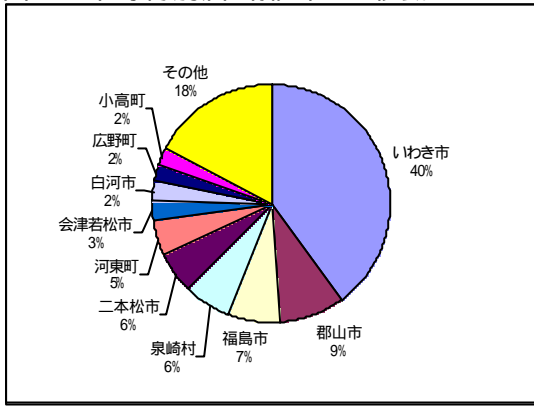


図13 市町村別届出排出量

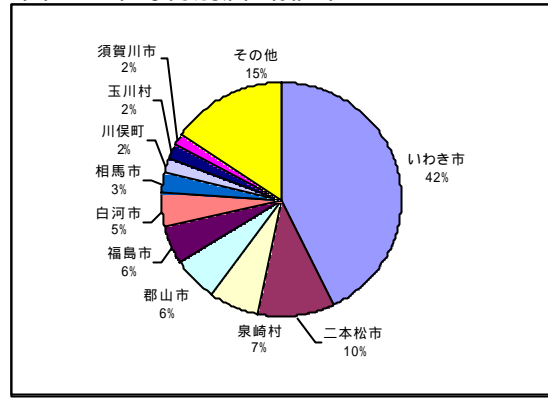


図14 市町村別届出排出量(大気)

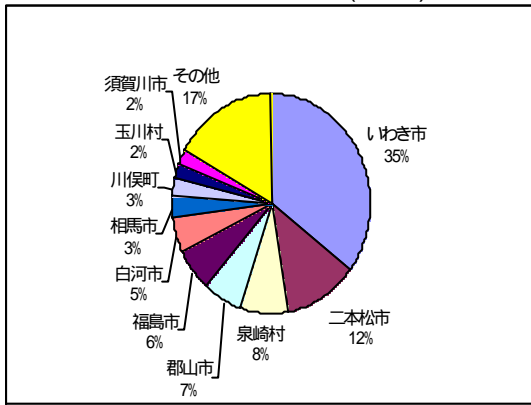
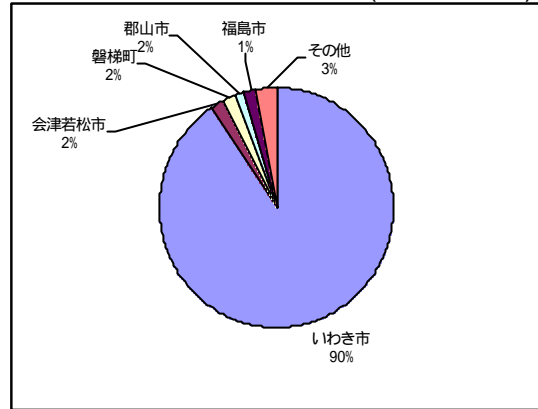


図15 市町村別届出排出量(公共用水域)



4 過去3ヶ年の推移状況

(1) 排出量・移動量等の推移

福島県における排出量・移動量等の過去3ヶ年の推移状況は表19のとおりです。

届出排出量について平成15年度と届出が開始された平成13年度の結果を比較すると、大気への排出量は届出の要件が裾下げ(平成13・14年度取扱量5t以上、平成15年度以降取扱量1t以上)になり、届出件数が増加したのにも関わらず約3,100t減少し、届出が開始された平成13年度を基準とすると約23%減少したことになります。これは、事業者による自主的な排出削減が進んだためと考えられます。

なお、届出外排出量については、推計方法の見直しがなされていることから、単純に比較はできません。

表19 排出量・移動量等の推移

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	H15/H13
届出事業所数 (事業所)	912	852	1,084	18.9%増
届出排出量・移動量 (t)	20,276	16,233	18,404	9.2%減
届出排出量 (t)	10,732(2,928)	8,123(2,883)	8,226(3,552)	23.4%減
届出排出量(大気へ) (t)	10,210(2,392)	7,614(2,233)	7,102(2,754)	30.4%減
届出排出量(公共用水域へ) (t)	541(524)	508(639)	1,122(781)	107%増
届出移動量 (t)	9,544(704)	8,110(618)	10,178(942)	6.6%増
届出移動量(事業所外へ) (t)	9,544(703)	8,110(617)	10,177(936)	6.6%増
届出外排出量 (t)	9,998	10,580	6,293	37.1%減
届出外排出量(移動体) (t)	1,487	2,992	2,213	48.8%増

注)かっこ内は届出件数を示す。

(2) 物質ごとの推移状況

ア 届出排出量(大気への排出)の多い上位5物質

平成15年度に大気への排出量が多い上位5物質を届出が開始された平成13年度の結果と比較すると、上位3物質の排出量は減少しましたが、他の2物質は増加しました。

表20 届出排出量(大気への排出)の多い上位5物質の推移

H15 順位	物質名	平成13年度 (t)	平成14年度 (t)	平成15年度 (t)	H15/H13
1	227 トルエン	5,458(536)	4,145(519)	3,966(591)	27.3%減
2	145 塩化メチレン(ジクロロメタン)	1,542(41)	1,083(39)	1,010(57)	34.5%減
3	63 キシレン	953(518)	838(491)	918(569)	3.7%減
4	211 トリクロロエチレン	238(20)	124(14)	307(34)	29.0%増
5	40 エチルベンゼン	87(456)	114(404)	146(485)	67.8%増

注)かっこ内は届出件数を示す。

- イ 届出排出量(公共用水域への排出)の多い上位5物質
平成15年度に公共用水域への排出量が多い上位5物質を届出が開始された平成13年度の結果と比較すると、1物質を除き増加しました。

表21 届出排出量(公共用水域への排出)の多い上位5物質の推移

H15 順位	物質名	平成13年度 (t)	平成14年度 (t)	平成15年度 (t)	H15/H13
1	304 ほう素及びその化合物	38(36)	40(52)	479(70)	1,161%増
2	181 チオ尿素	110(1)	170(2)	220(1)	100%増
3	283 ふっ化水素及びその化合物	45(45)	55(52)	187(62)	316%増
4	311 マンガン及びその化合物	243(38)	174(40)	174(46)	28.4%減
5	172 N,N-ジメチルホルムアミド	12(3)	13(6)	12(4)	増減なし

注)かっこ内は届出件数を示す。

- ウ 届出移動量(廃棄物としての事業所外への移動)の多い上位5物質
平成15年度に届出移動量(廃棄物としての事業所外への移動)の多い上位5物質を届出が開始された平成13年度の結果と比較すると全ての物質で増加しました。
これは、環境へ排出していた分を廃棄物としたためと考えられます。

表22 届出移動量(廃棄物としての事業所外への移動)の多い上位5物質の推移

H15 順位	物質名	平成13年度 (t)	平成14年度 (t)	平成15年度 (t)	H15/H13
1	227 トルエン	2,247(60)	2,464(60)	2,596(83)	15.5%増
2	311 マンガン及びその化合物	1,255(17)	1,511(16)	1,856(22)	47.9%増
3	283 ふっ化水素及びその水溶性塩	597(13)	722(12)	745(18)	24.8%増
4	211 トリクロロエチレン	73(14)	25(8)	505(28)	592%増
5	12 アセトニトリル	251(7)	220(7)	392(11)	56.2%増

注)かっこ内は届出件数を示す。

5 まとめ

- 平成15年度は1,084事業所(全国41,079事業所、第14位)から届出があり、環境への排出量・移動量は約18,000t(全国530,063t、第11位)で、その内訳は排出量が約8,200t(全国290,508t、第17位)、移動量が約10,000t(239,556t、第10位)でした。
なお、届出のあった化学物質は、届出対象化学物質354物質のうち206物質で、これは全国第1位でした。
- 届出排出量・移動量の多い上位5物質は、トルエン、マンガン及びその化合物、塩化メチレン(ジクロロメタン)、キシレン、ふっ化水素及びその水溶性塩でした。
- 届出排出量の多い上位5物質は、トルエン、塩化メチレン(ジクロロメタン)、キシレン、ほう素及びその化合物、トリクロロエチレンでした。
- 届出排出量・移動量を業種別にみると製造業が99%を占め、製造業のうち40%を化学工業が占めました。
- 国が推計した福島県内の届出外排出量は、約6,300tでした。
- 届出外排出量の多い上位5物質は、トルエン、キシレン、塩化メチレン(ジクロロメタン)、ほう素及びその化合物、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩でした。
- 平成15年度の届出排出量を届出が開始された平成13年度と比較すると約23%減少し、事業者による自主的な排出削減が進んでいるものと考えられます。